

見出しもリード文も重要

杏和高で読み方学ぶ出前講座



生徒たちに新聞の読み方を説明する伊藤さん＝稲沢市祖父江町二俣の杏和高で

NIE
教育に新聞を

日本新聞協会が主催する「いっしょに読もう！新聞コンクール」に向けた出前講座が十六日、稲沢市祖父江町二俣の杏和高校であり、一年生約二百四十人が新聞の読み方などを学んだ。

中日新聞社NIE事務局

の伊藤彰敏さん(左)が講師を務め、「新聞から考え、話し合うために大切なこと」と題して講演。新聞を読む意義や記事の価値判断の仕方などを説明した。その後、過去のコンクールの最優秀作品を例に「多様な見方や考え方ができる記事を選び、意見をまとめてほしい」と助言した。

生徒からは「読みやすい分野やテーマは何か」など

の質問があった。受講した北井健翔さん(右)は「見出しだけでなくリード文の重要性が分かった。いろいろな人に意見を聞いてまとめたい」と話した。コンクールは、小中高と高等専門学校の児童、生徒が対象。興味を持った新聞記事を選び、感想や家族、友人と話し合っ出てきた意見を専用紙に書き込んで応募する。九月九日必着。(牧野良実)

中日新聞

尾張版

令和2年7月24日(金)
朝刊

本校・1年「産業社会と人間」の授業で、新聞の活用方法について、学習しています。この件で、中日新聞の伊藤彰敏さんにご講演いただき、その様子が中日新聞に取り上げていただきました。

NIEとは...

NIE(Newspaper in Education)は、学校などで新聞を教材として活用すること。1930年代にアメリカで始まり、日本では85年提唱。その後、教育界と新聞界が協力し、社会性豊かな青少年の育成や活字文化と民主主義社会の発展などを目的に掲げて、全国で展開しています。

